

ベラルーシの原子力導入計画 露と建設契約に調印

ベラルーシ政府は十一日、同国初の原子力発電所建設計画でロシアの原子力建設輸出企業であるアトムストロイエクスポート(ASE)社との契約合意文書に調印した。チェルノブイリ事故で最も甚大な汚染被害を被ったベラルーシだが、天然ガスなどの輸入依存からの脱却を目指し、福島事故後初めて、原発建設で契約調印に踏み切った。初号機は二〇一七年に、二号機は一八年にも完成させる計画だ。

今回の契約文書には、ベラルーシ原子力発電所建設局のMウイリモフ局長とASE社のA・グ

ルホフ総裁が調印。リトアニアとの国境に近いオストロベツ村に出力百二十万kWのロシア型PWR(AES-2006シリーズ)を二基、タービンキー契約で建設する同計画について、基本的な契約条項が明記された。ロシアが総工費の九十四億ドルを融資するなどの項目も盛り込まれており、その調整手続きはほぼ完了したとしている。

同計画ではすでに二〇〇四年から、サンクトペテルブルクを本拠地とする総合エンジニアリング企業のアトムエネルギーグループ(AEP)社が、サイトや原子炉設計の選

事故後に支持派が増加 英国国民の原子力意識調査

英国科学協会が実施した英国国民の原子力に対する意識調査で、福島事故後に支持派の割合が増加するなど、原子力のリスクよりも恩恵の方が一層重要とする見解が多数派を占めていることが明らかになった。また、原子力を容認する男性の数が女性の二倍以上にのぼるなど、性別による技術に対する意見の相違が浮き彫りになっている。

この調査は同協会の委託で世論調査会社のポピュラス社が実施したもので、八月二十六日から二十九日までインターネット上で無作為に抽出した二千五十名の成人を対象にインターネット形式で行ったとしている。

| | 合計 | 男性 | 女性 |
|--------------------|-----|-----|-----|
| 原子力の恩恵はリスクをはるかに上回る | 20% | 32% | 8% |
| 原子力の恩恵はリスクを少し上回る | 21% | 26% | 16% |
| 原子力の恩恵とリスクはほぼ同等 | 16% | 14% | 19% |
| 原子力のリスクは恩恵を少し上回る | 12% | 10% | 15% |
| 原子力のリスクは恩恵をはるかに上回る | 16% | 12% | 20% |
| これらの見解のどれにも当てはまらない | 2% | 1% | 2% |
| 分からない | 12% | 5% | 19% |

問:これまで英国の原子力発電について見聞きしたことから、どの見解があなたの意見に最も近いですか?

| | 合計 | 男性 | 女性 |
|------------|-----|-----|-----|
| 強く賛成 | 22% | 33% | 12% |
| どちらかと言えば賛成 | 39% | 40% | 38% |
| 賛成も反対もなし | 14% | 10% | 19% |
| どちらかと言えば反対 | 10% | 7% | 14% |
| 強く反対 | 10% | 8% | 12% |
| 意見は無い | 1% | 1% | 1% |
| 分からない | 3% | 1% | 4% |

問:「エネルギー供給保証改善の一助になるなら、新規原子炉の建設を受け入れる」との見解について、どの程度賛成、あるいは反対ですか?

| | 合計 | 男性 | 女性 |
|--------------|-----|-----|-----|
| 適切な反応だと思う。 | 40% | 28% | 61% |
| 適切な反応とは思わない。 | 60% | 72% | 39% |

問:ドイツの決定は福島事故に対する適切な反応と見えますか? (※事故後、ドイツが2022年までに全原子炉の閉鎖決定したことを知る全員を対象)

| | 合計 | 男性 | 女性 |
|--------------|-----|-----|-----|
| 適切な反応だと思う。 | 40% | 28% | 61% |
| 適切な反応とは思わない。 | 60% | 72% | 39% |

建設・運転許可を発給
米規制委、アレバ社の濃縮工場計画に

内部の水素ガスや熱を除くという。また、ベラルーシは同設計であれば十二段階のMSK震度階級で下から七段階目の地震に耐えら

| 項目 | 完了/予定 |
|----------------------------------|---------|
| 1~4号機のサイト選定認可 | 完了 |
| 1~4号機の非原子力部分の環境影響評価(EIA)をEADIに提出 | 完了 |
| 1、2号機の建設認可申請(CLA)をFANRIに提出 | 完了 |
| 1~4号機の原子力部分の環境影響評価(EIA)をEADIに提出 | 完了 |
| 1号機のコンクリート打設 | 2012年後半 |
| 1、2号機の運転認可申請(OLA)をFANRIに提出 | 2015年前半 |
| 1号機の営業運転開始 | 2017年 |
| 2号機のコンクリート打設 | 2013年後半 |
| 2号機の営業運転開始 | 2018年 |
| 3、4号機のCLAをFANRIに提出 | 2012年後半 |
| 3、4号機のOLAをFANRIに提出 | 2017年前半 |
| 3号機の営業運転開始 | 2019年 |
| 4号機の営業運転開始 | 2020年 |

作業が行えるよう連邦原子力規制庁(FANR)に要請した。FANRは昨年七月、サイトでの限定的な準備作業を認可していた。ENECCが新たに承認を要請した準備作業項目は、1、2号機用原子炉建屋のコンクリート打設準備として、掘削場所の底部表面の地ならし、スチール鉄筋、埋め込み配管、電導管および電気接地材の敷設など。

米国内では現在、数十年ぶりに原発が新設されるの見込み、複数の大型ウラン濃縮施設建設計画が進められている。米

ウラン濃縮施設建設計画に建設・運転認可を発給した。これにより、AES社は濃縮度5%、処理能力三千三百トンの「イーグルロック濃縮工場」を二〇一四年までに完成させるため、来年にも建設工事を開始すると

ベレネ計画で露との契約延長
ブルガリア

ブルガリアの電力会社(NEK)は、このほどベレネ原子力発電所建設のためにロシアのアトムストロイエクスポート(ASE)社と結んでいた

中国核工業集団公司(CNNC)は十一日、福島事故後の新たな出発点として、田湾原子力発電所の二期工事となる3、4号機建設計画で子会社の江蘇核電有限公司(JNPC)および中国核電工程有限公司(CNEC)と土木・建築契約を結んだと発表した。

北京での契約式(二写)に出席したCNNCの李曉明・総経理補佐は、「今回の契約は田湾プロジェクトの重要な節目であるのみならず、福島事故後の中国の原子力発電計画にとって新たな出発点になる」とコメント。

同契約は二〇〇八年一月に正式に締結されたが、独RWE社が〇九年に出資を取りやめて以来、建設価格およびその資金調達問題がネックとなり、期限切れになる度、幾度となく延長されてきた。この問題は今年七月、ASE社側からNEK社に対し支払遅延に関する



田湾核电站 3、4号機 組立工程 契約調印式 2011年10月11日・北京